

2013 年 7 月 16 日 「天一国創建の一步は今」 石川祐司教会長

今日は昨日までの猛暑からやや日中の最高気温が下がり、ほっと一息です。
本日の訓読のみ言を以下に掲載いたします。

<訓読のみ言>

『天聖經』

成約人への道 第3章 国家・世界観 1)人類が追求してきた一つの国家、世界

② その国は私たちすべての願い

私たちは、神様の国を慕い仰ぎます。そこは、愛がある所だからです。一時的な愛ではなく、時間を超越した永遠なる愛が存続し得る所です。また、自分自らを高められる所であり、自分の価値を 100 パーセント認定してくれる所だということです。すなわち、永遠に幸福な所です。ですから人間は、天国を慕いあこがれるのです。(25-284, 1969.10.5)

もし、地上の国家を復帰することを自分の生涯に果たせなかった場合、皆さんは霊界に行っても天国に属した人としての価値をもつことができません。地上で神様の主管圏内で統治された実績をもち、霊界に行かなければなりません。それは、本来の創造基準なのです。(40-131, 1971.1.30)

私は今、世の中にうらやましいものはありません。この世的に見ても、うらやましいものはありません。この世的なものには考えがいきません。お金、土地、家、そのようなものには関心がないのです。「部屋、一部屋でも何でも、死ぬとしても私の国で死ななければならぬ。神様が保護し得るその国で死ななければならぬのではないか。私がそのように生きていくことができなければ、その生涯は、悲惨な生涯ではないのか。だから死ぬ前に、1 日もその国を訪ねていかなければならない」と。これが先生の一生の願いです。その日のためには、数千日の犠牲を投入しようという心で前進しているのです。皆さんは休んでも、私は前進しているのです。皆さんができなければ、外国人を動かしてでもやらなければならぬし、大韓民国ができなければ、外国を通して包囲作戦をしても行かなければなりません。

(51-340, 1971.12.5)

私たちの信仰の目標は、神様の国の民になることです。その国の民になれば、その子女として自由自在に万民、あるいは万物世界に誇り、愛される道は現れません。国がない者は、常に攻撃されるのです。かわいそうな立場に立つようになります。あきれるほどやられる場合がいくらでもあるのです。ですから神様が願う国がどこにあるのか、神様が足場とする国がどこにあるのか、これが問題です。(55-80, 1972.4.23)

主権のない国の国民は、かわいそうなのです。それでイエス様が案じて、「何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、

これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」(マタイ 6 : 31〜33) と言われました。
先に息子を求めよと言われましたか、国を求めよと言われましたか。神様が望んでいる国を
求めよと言われたのです。(34-337, 1970.9.20)